

2020年10月26日

国土交通省九州地方整備局長 村山一弥様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 緒方俊一郎
岐部明廣
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康

球磨川流域治水協議会に関する抗議と要請

報道によりますと、球磨川流域治水協議会が10月27日に開かれるとのことで、私たちは大変驚いています。10月6日に、わずか2回の会合で終了した球磨川豪雨検証委員会の検討内容は、豪雨被災者や住民の実感とも、また多くの研究者の意見とも大きく相違するものでした。その結果に基づき治水対策を協議することに、強く抗議するものです。

私たちは、同検証委員会の検討内容について、10月12日に「球磨川豪雨検証委員会に関する公開質問状」を提出しました。10月20日の熊本県による「住民の皆様への御意見・御提案をお聴きする会」における、「球磨川豪雨検証委員会に関する公開質問状」に対する口頭での回答は、住民の疑問に真摯に答えようとする姿勢は全く感じられませんでした。問題をすり替えたり、都合の悪い点には答えなかったり、「洪水流量や川辺川ダムがあった場合の効果について科学的な検証はなされたのか」との質問については、「八代河川国道事務所のホームページに掲載された参考資料を見よ」との姿勢でした。

公開質問状では「住民が理解できるように説明すること」と述べていたにもかかわらず、同ホームページに掲載された合計200ページもの「参考資料」を見ると、専門的な表やグラフばかりで、被災者や住民が理解することは到底不可能です。また、資料の元データなどが示されていないで、国土交通省の見解の是非を判断することができません。これでは国土交通省は、説明責任を果たしたとは言えません。

今次豪雨災害の検証と、今後の具体的な治水対策は、豪雨被災者のためになされるものであるはずですが、被災者の意向を把握しないまま次の段階にことを進めると、流域にさらなる混乱や対立を生みだし、球磨川の洪水防止対策をさらに遅らせることになります。

今後なされるべきことは、治水に関する議論だけではなく、地域の復興に関する議論です。現在の球磨川・川辺川があってこそその地域の復興です。今後、治水の議論を進める上でも、復興を前提とした議論がなされるべきです。

豪雨被災者や住民の意向も把握しないまま、被災者や住民の意見も聞かないまま、住民からの公開質問状にも真摯に答えようとしないまま、住民に説明責任を果たさないまま、具体

的な治水対策の協議に入ることに強く抗議するとともに、下記4点が実施されるまで、球磨川流域治水協議会を開催しないことを強く要請します。

記

1. 10月12日付の「球磨川豪雨検証委員会に関する公開質問状」の項目ごとに文書で回答するとともに、住民と対面して口頭でも説明すること。住民の再質問にも真摯に答え、説明責任を果たすこと。
2. 球磨川豪雨検証委員会のメンバーに、豪雨被災者や、これまで流域の治水対策を求めてきた住民団体、河川工学の専門家を加え、今次豪雨の検証をやり直すこと。検証結果を球磨川流域の各所で住民にわかりやすく説明すること。
3. 豪雨被災者全員に、今後どのような対策を望むのか、意向調査をすること。
4. 球磨川流域治水協議会のメンバーに、豪雨被災者や、これまで流域の治水対策を求めてきた住民団体、河川工学の専門家を加えること。

以上

【本文書に関する連絡・問合せ先】

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会
熊本市西区島崎 4-5-13 中島康 電話 090-2505-3880